

東京歯科大学同窓会報

退任ご挨拶 福島秀策



一兩年來とみに心身のかたむきをおぼえるようになりまして、第一線を退きたいと思ひ、学長の職をとりていただくようかねてからおねがひしておりましたところ、夫々の議をへて来る五月末日を以て現職を退くことのお許を得ましたので、ここに挨拶を申し上げます。

私は昭和三十一年六月大学院開設の御手伝に母校に帰ったのでありましたが、翌年五月前学長奥村先生の後を御引受けしようなどは夢にも考えなかつたことでありました。

爾來今日まで二期余を過ぎてまいりました。この間自分の不敏を顧み退陣を考えたこともありましたが、実現にいたらず、学内外のご鞭達に追われて今日に到つたのであります。

在職中出来たことは総て先輩諸先生方の業蹟の賜物であり、同僚各位の協力と同窓の方々の絶大なる御支援によるところでありまして決して私独りのよくなし得たことでないことは申すまでもありません。

何等後顧の憂なく老兵は去るの心境を抱いて静に第一線を退くに當りて深き感謝の意を表してご挨拶といたします。

挨拶 杉山不二



福島秀策先生の学長御辞任に伴い、去る三月二十日の全体教授会において、私は、福島先生の後任者としての推薦を受けましたが、その後、三月二十四日に開かれた法人評議員会の賛同を得て、同日、理事会から、六月一日をもって学長に就任するよう御命令を受けました。ここに謹んで御報告いたします。

福島先生は、皆さん御承知のとおり、資性、豪放磊落、しかも極めて用意周到、その御仕事振りの緻密な点において、私は、常にその御仕事振りを拝見している一人として、心から敬服の念を禁じ得ないものがあります。

昭和三十一年六月、福島先生を再び東京歯科大学の教授として御迎えしたのでありますが、三十二年三月、衆望を負うて学長に就任されるや、その手腕を縦横に發揮されて、大学院の開設、学内諸設備、施設の改善、市川病院の増改築など、この八年間に数々の事業を為し遂げられたのであります。翻って、この偉大な学長の後任として、私の器の余りにも小さいことを恐れる次第であります。

母校史料の御貸与について全国同窓各位へお願い

会長 田丸将士

欧米諸国の歯科大学では、それぞれに大学の発展を物語る史料室が学内に完備され、後進の教育に資せられてゐる。七十五年の歴史を誇る母校では、多くの貴重な史料が保存されながら、これらがほとんど内蔵されてゐる現状にかんがみ、同窓会では今回の創立七十周年記念祝賀大会の事業の一環として母校史料整備基金の一部金百万円を母校へ贈呈することが去る四月十五日の定例理事会において決定された。

母校ではこれを機会に史料室の完成を進められることになり、とりあえず来る十五日の学内展示会に際しては、会議室に全史料を陳列し、広く一般に公開される予定である。

ついては、全国同窓各位のうちに血脈先生、高山先生をはじめ諸先輩者に関する史料や母校七十五年の歩みを物語る貴重な史料を保護されている方々が少くないものと思われ、ぜひともこの際御貸出もしくは御寄贈いただき、右の陳列室あるいはさらに将来の史料室の完備に何分の御協力をお願い申し上げます。

なお、詳細については、祝賀大会幹事長の松宮教授へ御連絡を併せてお願い申し上げます。

同窓会創立七十周年記念諸式典次第

(昭和四十年五月十六日 午前十時 椿山荘新館)

司会 長尾 喜景 山本 為之

開会の辞 大井副会長
国歌斉唱
経過報告 松宮幹事長
一、同窓会創立七十周年記念式

式辞 田丸会長
物故会員に黙禱

祝辞 福島学長
祝辞 歯科大学学長代表
祝辞 同窓会代表 田丸会長
記念品贈呈 石河理事長

二、高山紀高先生胸像除幕並びに贈呈式

修祓 高山 基殿 千葉 誠夫 御夫妻 田丸会長
除幕 福島学長

胸像贈呈 永田委員長 田丸会長
謝辞 遺族代表挨拶 制作者紹介 感謝状贈呈

三、福島秀策先生古稀祝賀 記念品贈呈式 田丸会長 田丸会長 福島秀策先生

式辞 田丸会長
挨拶 福島秀策先生 杉山不二先生 菅野副会長 荒谷副会長
万歳三唱
閉会の辞

四、学長歡送迎式

高山紀育先生像 復元報告

委員長 永田令藏
副委員長 松井隆弘

いよいよ、同窓会七十周年記念事業の一つとして高山先生像の復元の除幕の日も近い。関東大震災により、神田三崎町の血脳先生の診療所の庭園に建立されてあった像が破壊され、溶解され、残骸を残していた。これは本所の震災記念堂に本学より寄贈され、当時の被害の甚大である証拠の一つにされている。先生の胸像は故朝倉文夫伯により成ったもので、像の下の文字も同伯の筆によるものである。この度、今里龍生伯の力作により、高山先生の風貌が再現され、齒科医学の開拓者として、また本学の設立者としての先人の偉業に感謝の意を捧げるに相応しいものになる。除幕の日が待たれる。

新同窓生名簿に対する 期待とお願い (続)

米沢 和一

同窓会会報一〇三号掲載の拙文に対し、意外の反響があり、新名簿作製のための照会状についても一々丁寧な返信をいただいていることに氣をよくして、一、二補足的な記事を書いて見た。

昭和三十六年刊行の同窓生名簿の

名譽会員欄に、齋藤清太郎、東京都文京区東青柳町一七、在住とある。私は昭和七年母校卒業で引続き母校に在勤し、この六月で満五十六才になる中高(？)であって見れば、少しは高名な方の名位は心得ているつもりだが、さっぱり分らず、思い余って区内の齋藤寛三郎先輩にお尋ねしたら、随分前にご逝去とのことであつた。よくもまあ、永年放置してあつたことよとあきれられるばかりである。

◎名譽会員故斎藤清太郎氏の略歴

明治二十三年七月渡米。同二十六年加州ロスアンゼルス、南加大学教授ドクトル、H・バルマー氏の治術所に入り、同三十年九月、同大学に入學。同卅六年五月卒業し、ドクトルの学位を受く。同年六月加州齒科開業試験に合格して同市に開業し、翌年一月帰国し、時の内務省齒科開業試験に合格して東京に開業。傍ら東京齒科医学専門学校の講師として治術学を教えられていた。

以上は『東京医療案内』明治四十三年、東京、晝声社記事の一節である。齒科医学史では第一人者たる山田平太先輩よりのご示教によるものである。因みに、わが同窓会名譽会員は、生存者十三名、故人五十八名である。

終戦直後の昭和二十二年春、齒科醫師国家試験が施行されたことは周知のことではあるが、齒科医専卒業でない方のために、予備国家試験が行われ、合格者に対して、齒科医専付属病院へ、イン턴生として一カ年の配属させられた。受入れ側の母校の場合、当時の最高学年の級友と交って病院実地試験を受け、始めて齒科醫師となつた訳である。この制

度は昭和三十年近くまであつたようであり、精々数名を限つて毎年度受け入れていたように思う。実は、その方々の名簿が明確でないのであつて、松井隆弘教授のご協力を得て、次の住所録が出来たのである(水野氏だけは同窓会に加入しておられないように思うが)。関係諸氏よりのご一報によつて、この名簿も完成したいものと思つている。

- 菊地只男 25 北海道旭川市東旭川町 本町一三五
 - 栗城喜助 25 埼玉県大宮市宮町一ノ三四
 - 小堀延男 25 東京都板橋区上赤塚町五〇
 - 後藤久雄 24 岐阜県加茂郡八百津町 久田見二七五五
 - 佐藤定行 22 北海道川上郡下川町幸町
 - 坂本賢吉 24 東京都北区赤羽町一ノ一四五
 - 田中英一 25 神奈川県川崎市宿河原 二〇八二
 - 並木三郎 23 埼玉県秩父市野坂一ノ九一
 - 水野嘉雄 26 東京都品川区西中延一ノ一七八(?)
- (数字はインタン修了年を示す)
以上

本部短信

▼台湾支部結成さる

三月下旬母校より大井、関根両教授が訪台されたが、これを機会に東歯同窓会台湾支部が結成された。これに関しては両教授から詳しい帰朝報告を頂戴する予定となつて、こので次号に御期待を乏う。

▼六月例会とりやめ

本会では例年六月に例会を開催しているが、本年は七〇週年大会を五月に開催するため、六月の例会はとりやめることになった。

▼会場設備委員会より

五月十五日(土)の学内展示の当日は先生方の多数のご来駕をお待ちいたしております。

自動車でお出の先生には恐れ入りますが駐車場の用意はいたしかねますので、図示してあります近所の有料駐車場をご利用下さい。

なお、市川の病院、進学課程を見学希望の先生には午後一時病院前からバスを發車いたさせます。

中華民國台湾同窓のみなさまへの御礼

大井 清 関根 永滋

去る三月廿五日から四月七日に至る二週間われわれ兩名参上の御り、みなさま方より格別の御芳情と御接待とを賜わりまことにありがたうございました。約二十年振りの御拝顔、御一同様いとも御健かに、且つ御伴わせに御過ごしの御模様を直し上げます。

母校より

◆人事

依願解任
学長 福島秀策 四〇、五、三二
後任学長
教授 杉山不二 四〇、六、一
(任期は四三、五、三一まで)
保存学講座主任教授
助教 石川達也 四〇、四、一
助教 授昇任

講師 葛西四朗(生理) 四〇、四、一
講師 高橋重雄(理工) 〃 〃 〃
講師 瀨端正之(矯正) 〃 〃 〃
講師 岩野孝(放射線) 〃 〃 〃
講師 昇任

助手 青木 弘(衛生) 四〇、四、一
助手 小宮善昭(口外) 〃 〃 〃
助手 堺 拓之(市病歯) 〃 〃 〃
助手 千葉英輔(市病歯) 〃 〃 〃
助手 相有三郎(市病歯) 〃 〃 〃
講師 新任
大学院修長 谷川孝義(衛生) 四〇、四、一
大学院修一色泰成(矯正) 〃 〃 〃

助手 昇任
副手 前田高直(解剖) 四〇、四、一
副手 山田宜代(薬理) 〃 〃 〃
副手 河内隆男(病理) 〃 〃 〃
副手 川嶋素子(生化) 〃 〃 〃
副手 高田敬義(微生物) 〃 〃 〃
副手 麻生美智子(保存) 〃 〃 〃
副手 原口 勲(保存) 〃 〃 〃
副手 鳥居栄一(保存) 〃 〃 〃

同窓会創立七十周年祝賀 講演及び學術映画會

○会場 母校第一教室(本館一階)
○時間 昭和四十年五月十五日(土)
午後一時~四時

○プログラム(世話人、米沢和一教授)

座長 大井清教授
一、矯正と子供の歯(六十分)
講師 日本大学歯学部
岩垣 宏 教授

座長 杉山不二教授
二、日本の歯科医術七十年の回顧
(六十分)

講師 東京医歯大歯学部
山田 平太 講師

三、十六ミリ學術映画(司會、上条雅彦教授)

(一) 追われるガン細胞(二十三分)
中外製薬KK提供
(二) 唾液腺ホルモン『パロチン』
(三十分)
帝國臓器KK提供
以上

『解説』

●矯正と子供の歯

乳歯の重要性を論じ、
—— 保育の必要性を考える ——
矯正家のわたくしが、なぜ、小児
歯科や保育歯科のことに、うきみを
やつているかということから、お
話してみたいと思います。

それは、わたしが、矯正に、ゆき
づまったためではないので、東歯専
卒業以来四十年の間、矯正家とし
て、ひたすら、努力したつもりで
が、その結果が、わたしを、そうさ
せるのであります。矯正学から発育
成長という問題を、除外してしまっ
たら、それは、補綴的矯正と同じも
のです。

勿論手技的方法論では、両者は、
おのずから、異なるものがあります
が、その方法論の違いが、両者を持
殊づけるのではなく、補綴の方では
発育成長というような、時間的な問
題は、殆んど、考慮する必要がない
のに、矯正から、時間とか、動きと
かという問題をとりぞいだしたら、矯正
の学問的特殊性は、なくなってしまう
からだと、わたしは考えます。

近來、矯正の手技的方法論が非常
に、変って、混合歯列弓の矯正は、
いろいろ、むずかしい点があるの
で、生え代ってしまつてから、永久
歯列弓を矯正しようとする傾向が
強くなりつつあることが、うかがわ
れます。しかし、この場合、第一小
臼歯を、四本、抜かねばならぬこと
が多いのです。それだけの理由もあ
ることで、一概に、それを排斥す
るわけにはゆきませんが、人々の心
がけて、そうならないように、早目
に、何とかする工夫はないものに、早
いのが、わたしの、今日のお話の
眼目です。(歯科矯正学担当兼任教
授)

◎著書

一、わたしの矯正(医歯業出版KK
版、写真文庫、第十一、第二十二)
二、新編保育歯科学(共著)
◎日本保育歯科協会理事長、岩垣研
究所所長

して初めて伝えたものである。
その後明治三年から同十二年の間
に、外人歯科医師四人が開業中に、
十三人の邦人が伝習したのと、アメ
リカで歯科を修業帰国した一人によ
って基礎が築かれた。したがって、
わが国の歯科医術は外国の歯科医術
の水準で発足したわけである。しか
し、歯科用器具や材料の不備などで
遅れるに至つた。

わたしは、歯科科金表の治療事項
をその頃の歯科医業の範囲と見て、
これに基づいて歯科医術の歩みを述
べるとともに、世人の批判を加える
こととする。(歯科医学史担当非常
勤講師)

◎著書
一、日本歯科医学史
二、日本口歯科史
三、歯科医事衛生史
四、日本歯科民俗史

◎『十六ミリ映画』追われるガン細
胞
(天然色 二十三分)
一九一五年、山極・市川兩博士に
よつて始めて兎の耳に癌がつくれ
て以來、多くの発癌性物質が発見さ
れて來ている。そして現在では、細
胞のレベルで発癌・制癌に関する広
範な研究が行われている。

元來、生体細胞は種属によつて特
有な数と形の染色体を有するが正常
な細胞がなんらかの刺激で癌化する
と染色体の数と形に狂いがきて、自
動的な細胞となり異常増殖をする。
しかし、いかなる機序で正常細胞が
癌細胞に変化するかは不明である。
そこで正常細胞を異常に変化させ、
癌化の道筋を探ろうという研究が進
められているが、この映画ではパツ
タの精母細胞に放射能をかけて異常
分裂を起こさせる実験と、孵化鶏卵
組織にラウス・ウィルスをかけ、そ
こにかたまり「腫瘍」を形成する実

験経過が促えられている。
一方、いろいろな物質で癌細胞を
破壊する実験も進められている。こ
の映画では、植物から分離されたポ
ドフィロトキシンや抗癌性抗生物質
とヒール細胞の組合わせ、ナイトロ
ジェンマスタード・N・オキサイド
と吉田肉腫およびヒール細胞の組合
わせで癌細胞のこわれて行く状態が
克明に記録されている。

◎『十六ミリ映画』唾液腺ホルモン
『パロチン』(天然色 三十分)

耳下腺の腺細胞から分泌されて線
条部から吸収されているホルモンが
パロチンである。パロチンは、十七
種のアミノ酸から出來ているペプタ
イドであるが、生体内の種々の物質
代謝に関連している。
まず無機質代謝についてみると、
血清Caを低下させ、珪酸質の石灰化
を増進するなどCa代謝を主宰してい
るホルモンの一つである。

また副腎のコルステロール代謝を
介して肝臓グリコゲンを増量させ、
脂質に対しては肝脂肪を動員してエ
ネルギー保持の役割を果している。
さらにパロチンは間葉系組織の栄養
保持に関連を有し、老化現象を防止
する作用がある。

唾液腺萎縮症「カンペンベック病」
の原因追究から緒方知三郎一門によ
つて明らかにされたパロチンについ
て、この映画では、老化現象の定義
分類から説き起こし、その内の仮性
老化現象に対するパロチンの特異的
効果を紹介している。

唾液腺別出動物・パロチン投与動
物などの表示から、人間でのパロチ
ン投与例まで幅広く撮影されてい
る。

副手谷 光明(保存)	副手新任	四〇、四、一
副手上田昭雄(保存)	副手新任	四〇、四、一
副手奥家信一郎(保存)	副手新任	四〇、四、一
副手岡田京子(補綴)	副手新任	四〇、四、一
副手武藤 功(補綴)	副手新任	四〇、四、一
副手多田集一(補綴)	副手新任	四〇、四、一
副手前田佳英(補綴)	副手新任	四〇、四、一
副手森 隆(補綴)	副手新任	四〇、四、一
副手平井泰征(補綴)	副手新任	四〇、四、一
副手佐藤昭雄(口外)	副手新任	四〇、四、一
副手竹山隆芳(口外)	副手新任	四〇、四、一
副手鈴木雅晴(口外)	副手新任	四〇、四、一
副手福島敏夫(矯正)	副手新任	四〇、四、一
副手平野紀正(市病歯)	副手新任	四〇、四、一
副手吉沢信夫(市病歯)	副手新任	四〇、四、一
副手正置明美(法歯)	副手新任	四〇、四、一
副手新任	副手新任	四〇、四、一
大学院修黒柳錦也(口外)	副手新任	四〇、四、一
副手新任	副手新任	四〇、四、一
柿崎 君子(業理)四〇、四、一	副手新任	四〇、四、一
福地喜久恵(業理)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
清水 和子(生化)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
大和 雄三(口衛)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
辭 職	副手新任	四〇、四、一
助教教授森本 優(保存)	副手新任	四〇、四、一
講師桜井裕(補綴)	副手新任	四〇、四、一
助手奥山宏(補綴)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
助手広田 稔(補綴)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
助手桜井和子(矯正)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
助手吉沢健介(市病歯)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
助手河原武彦(補綴)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一
副手瀬川光代(口外)〃〃〃	副手新任	四〇、四、一

更始会

昭和三年卒

既に御案内しました通り本年度の総会を五月二十一日より三日間山陰舞鶴を中心と城崎温泉京都の廻遊として行なうことになりました。目下六十一名(同伴紙を含めて)の御参加を得て盛会に行なわれます。殊に当番幹事の浅野誠君には非常のお骨折りで。全国より卒業以来始めてと云う新顔の方も多数出席されますので今からでも結構です。是非御出席をお願いいたします。集合は京都立駅に二十一日の一時で解散は京都二十二日午後六時頃です。連絡は堀真一か山本權三にお願いします。(堀記)

珊瑚会

昭和五年卒

光陰矢の如しとか、月日の流れはなんと早い事でしょう。学窓を出て三十五年、全く夢の様です。大正十五年に入學したので、三、五、十五で珊瑚会。今年に卒業して三十五年で珊瑚会。大いにこれを記念して思い出深いものになるよう次の計画をたてました。

一、珊瑚会三十五周年記念祝宴

日時 五月十五日土曜午後五時
会場 石亭 渋谷区松涛町十四
会費 五千五百円

一、記念品頒布 珊瑚のネクタイ止
この費用は千五百円です。これは全員のの方に御賛同を願ひ御負担をして頂き度く存じます。これ等の詳細は皆様に別便にて御通知を差上げました。既に着々御返信を頂いて居りますが、今までの例では御通知をしなくても半数程しか御返信が頂けません。

三辰会

昭和七年卒

七十周年同窓会祝賀行事中の五月十五日土曜午後五時から市ヶ谷駅前科学会館に於いて総会を開催致します。

燦志会

昭和十六年卒

会員諸兄にはいよいよお元氣のことと存じます。七十周年大会には是非多数の御参加をお待ち致します。

昭久会

昭和十三年卒

昭久会の皆様五月同窓会七十周年記念会を目前にして御上京を鶴首致しながら公私共御たんの日をお越しの事と存じます。

先日、昭久会報にてお報せいたしました通りクラス会の詳細がまきりまされたので左記御連絡いたします。尙当日は珍しい顔ぶれが北より南より多数集い盛会が予想されますので何卒万障繰り合せのうえ、記念祭にそしてクラス会に奮って御出席下さるようおまちしております。昭久会報でクラス会場、略図その他を御連絡いたします。

日時 五月十五日土曜午後六時
台東区上野一ノ二
黒門会館(公三)三二〇〇
都電黒門町電停前
高橋耳鼻咽喉科
会費 三千円
(幹事) 安達 直
武井 憲二

寄稿

「夢」

同窓会創立七十周年によせて

堤 敏 郎

小生等二人とも本部の役員でクラスのお世話ができないため在京諸兄のお骨折りで十五日クラス会総会を開催致します。往復ハガキを差上げますから折返し出欠の御返事を願います。

新日本会館
日時 十四日四時
集合同所東園玄関前
(天野・山本)

さる年、クラス会旅行で、山形の上之山温泉に行った。そこに春雨庵と云う茶室があって、確か沢庵禪師の書「夢」なる額を覗いたことがある。成程流石は沢庵和尚うまいこと書きおったものど独り合点しながらふとお臨先生は母校にどんな夢を抱いて逝かれたのだろうと考へたことが時々何故か想い出す。そこでこの一文を草するのである。

夢といえば、位人臣を極めた太閤秀吉が「...難波のことは夢のまた夢」と悟つたような辞世を残したが、幻弱の嗣子秀頼の行すえを案じ乍ら願目した。あの偉大な秀吉が如何ともしがたい歴史であったことは御承知の通り、とかくこの世はまなならぬからこそ、「夢」を人間は求めるのであろう。秀吉の詠じた夢は過去形の夢である。血脇先生の夢は未来形の夢である。近頃の流行語でいうビジョンにも相当するのであるか。

私が胸ときめかして入った憧憬のT・D・Cの学相で東京の街々を闊歩したのは約三十年前、それから四十年間、若き血気に委せて思う存分振舞って、どうやら卒業証書をあのホールで頂いた。散々手古摺らせた先生方も今は半数近く冥明境を異にされたが、空蟬のはかなきと共に懐しい懐しい想出が一杯である。社会人となつて、やがて何日しか我が伴、

娘を母校に在学させ、亦お世話になる年頃となつて終つた。まさに人生流転、因縁は浅からず、因果は巡る小車に似て、我が夢の再現を子に托すかのようである。

この間、世界は変遷し、戦禍も癒えて世相も些か変貌したが、あの水道橋の母校は依然として聳え、懐しい先生や後輩を中心に学生諸君は毎日集りに集つて居る。

墓下の血脇、奥村、花沢先生たちの感慨は如何などと考へるのは痴人の夢であろうか。

同窓会やクラス会メイトの会合で歌う校歌の一節一節は、ほろ苦い青春の想い出と母校への郷愁を惨ませてくれる。ああ!誰か夢なき!

白髪を交える昨今はひとしお母校よ水遠たれと願う「夢」は強烈になつて来た。

血脇先生の夢を托された我々同窓は母校の巨歩を辱めないよう、母校発展のために、純粋謙虚な気持ちで大同団結して、今後一層の情熱を傾けようではないか。

夢は希望と活気を与え、常にこの世を浄化し、若返らせる神秘的偉力を持つて居る。

「夢よ永遠なれ」
つね日頃、求めて止まぬ夢なれば
わが夢こそは覚むることなし